

協力校としての取組

五泉市立愛宕小学校

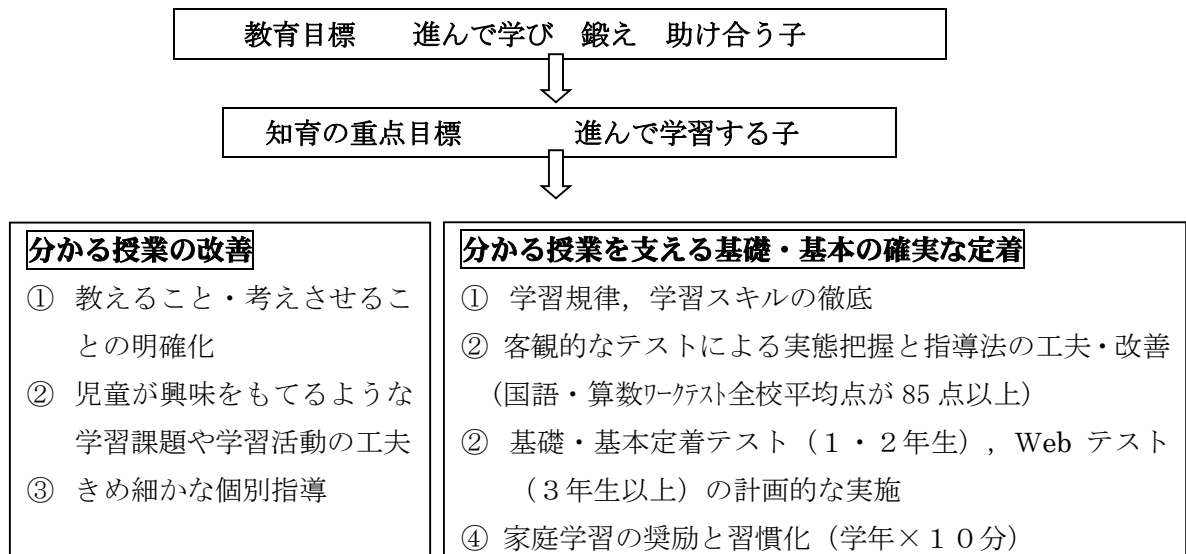
1 研究主題

確かな読みの力を育てる指導の工夫

2 研究主題設定の理由

(1) 教育目標の具現から（グランドデザイン 2015 より）

当校の教育目標は、『進んで学び 鍛え 助け合う子』であり、『進んで学習する子』『協力して行動する子』『めあてをもって運動する子』の育成を目指している。この目標には、めあてをしつかりともち、主体的に課題を解決し、自らの力を伸ばしていこうとする積極的な態度や能力を育成するという願いが込められている。したがって、教育目標具現のためには主体的に取り組む子どもの育成を長期的な教育課題としてとらえ、段階的にその資質、能力の伸長を図っていく必要がある。基礎的・基本的な力を身に付けさせ、「主体的に学習する」子どもの姿を目指し、分かる授業を推進していく。



(2) 昨年度までの研究の成果と課題

昨年度、「確かな読みの力を育てる説明的文章指導の工夫」を研究主題に掲げ、言葉に着目し、叙述に即して正しく文章を読み取る力の育成を目指してきた。研究を通して、次のような点が成果と課題として明らかになった。

成果

ア 教材の工夫

- ① 教材文の拡大掲示
- ② 教科書の挿絵の拡大提示
- ③ 教材に関する絵本や詩集などの紹介

イ ワークシートの工夫

- ① 自分の考えと友だちの考えを書きことができるワークシート、穴埋め式のシートや、まとめる時手がかりになるキーワードを提示したワークシートの使用。

ウ 交流の場の設定の工夫

- ① 学習活動によって、自分の考えをペア、グループ、全体など交流する形態を変える。

エ 学年の発達段階に応じた手立て

- ① 動作化を行い、想像を膨らませる。
- ② 叙述を正しく読み取るため、表に整理し対比を行う。

課題

- ① 子どもに文章を読む目的と課題解決のための見通しをもたせることが大切である。
- ② 学習過程において、言葉や叙述に立ち返って書かれている内容を確認する場が必要である。
- ③ 学習用語（中心文・トピックセンテンス等）を正しく理解させる必要がある。
- ④ 交流の場面では、話し合いの観点を明確にし、自分と友だちの考えを比較しながら聞いたり話したりさせる必要がある。

(3) 学習指導改善調査の結果から

学習指導改善調査の本校児童の傾向は以下の通りである。

学年	教科	多く見られた誤答
4年	国語	・「親子いっしょに野外で遊ぼう」というテーマを意識していない。 ・時間配分を意識して問題を解く習慣が身に付いていない。
	算数	・計算はできるが、得られた解答がどのようなことを示しているのかについての理解が不十分である。 ・適切な言葉や式を使ってもとめ方を説明することができない。
	理科	・「かげが太陽とは反対側にできること」が記述にない。 ・「Nきょく」「Sきょく」がそれぞれくぎのどちらの方になっているか、違う極が引き寄せられるからという理由のどちらか一方は書いているが、二つ併せた記述がない。 ・問題の意味は理解していても、解答する際に何がキーワードとなっているかを捉えることができない。
5年	国語	・賛成理由は記述されているが、自分の体験や予想を加えることができていないものが多い。 ・賛成する案の問題点については記述してあるが、問題点に対する自分の意見が整合していないものが多い。
	算数	・提示された式に見合う図がかけない。問題の意味が読み取れないため、提示された式に見合った図がかけず、説明もできない。 ・「角か」と「角き」は同位角で同じ大きさであるという意識が薄い。それが分かっているが、文で言い表すことができない。

	理科	<ul style="list-style-type: none"> ・晴れの日には気温の差が大きいことはとらえている。しかし、設問の「数値を使って」という指示に即して、説明の中に数値を盛り込めなかったことによる誤答が多い。 ・「空気は押し縮められると、元に戻ろうとする力が働く」ということは実験ではとらえていても、文章で表現ができていない。
6年	国語	<ul style="list-style-type: none"> ・条件が多すぎて、作文を書いているうちに「言葉を引用する」ことを忘れてしまう。 ・「引用」の条件にとらわれすぎて、自分の意見を書かずに終わってしまう。 ・自分の意見・考えと、資料から分かることを区別できていない。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> ・底辺が2倍、高さが変わらないことに気付くことができない。 ・問題の意味が分からない。 ・面積のもとめかたの説明が不十分で長さが2倍であること・面積が2倍になることまで記入されていない。
	理科	<ul style="list-style-type: none"> ・曲がっている川の流れの速さについて、外側の流れが速く、浸食の働きが大きいことが理解できていない。 ・電池の数、コイルの巻き数など違いは記述できるが、どうして同じ数ついたのかの記述がない。違いは、実験の結果を比較したものであるが、考察や結論にいたっていない。

3 研究主題の意図

本研究主題の「確かな読み」とは、文章に書かれたことを正しく読み取り、意味付けることである。具体的には、文学的な文章や説明的な文章の内容や表現を、想像、分析、比較、対照、推論などによって相互に関連付けて読むことである。読み手の目的や意図に応じて、文章の内容や構造を理解したり、その文章の特徴を把握したり、書き手の意図を推論したりしながら、叙述に即して論理的に考え、文章を正しく読み取る子どもの育成を目指すものである。

4 今年度目指す力

◎言葉に着目し、叙述に即して正しく文章を読み取る力

5 研究内容と方法

(1) 研究教科 国語

(2) 研究内容

叙述に即して正しく文章を読み取る力をつけるための手立てのあり方を探る。

○学習活動を工夫し、目的に応じて文章を読み取らせる。

- ・ 単元構成の工夫
- ・ 学習課題や発問の工夫

○言葉や文章を根拠に考えさせ、正しく読み取らせる。

- ・ 根拠となる言葉や文章に着目させる工夫（キーワード、指示語、接続語など）
- ・ 読み取るポイントを明確にするワークシートの活用

○語句の意味理解を確かにする。

- ・ 音読のさせ方の工夫
- ・ 絵や具体物の活用
- ・ 動作化による理解
- ・ 辞書、図鑑等の活用
- ・ 読書の奨励

(3) 授業研究の進め方

- ・ 各学年部を研究組織の基盤として、研究授業を中心に校内研究に取り組む。各学級1回の研究授業を実施する。
- ・ 研究授業は、学年で説明的文章教材と文学的文章教材それぞれを行う。ひまわり学級、級外職員はこれによらない。
- ・ 研究授業は、種類を全体研と学年部研に分ける。全体研は全職員が参観し、全体で協議会を行う。部内研は原則として同一学年部の職員が参加することとする。
- ・ 授業公開に先立ち、指導案検討会を開き、研究授業の視点を明確にする。(研究授業の2週間前に、研究授業指導案の検討を行う。全体研は、1週間前には指導案を指導者に送付する)
- ・ 授業者は、全体検討会前日までに学習指導案を配付し、検討事項を明らかにしておく。
- ・ 研究授業終了後に研究協議会を実施し、授業の視点をもとに研究内容の有効性を協議する。
- ・ 公開した授業は、学習指導案・資料・考察(成果と課題)を研究紀要としてまとめる。

6 研究の実際

全体研修を行った5年生長谷川教諭による取り組みを紹介する。

1 単元名 物語の魅力を伝えよう 教材名「大造じいさんとガン」

2 単元の目標

- 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめるとともに、それを発表し合い、考えを広げたり深めたりすることができる。
- 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつことができる。

3 児童の実態(男子12名、女子11名、合計23名)

1学期の「なまえつけてよ」では人物どうしのかかわりを捉え、自分と登場人物を比べて感想をまとめる学習をした。本文の表現から登場人物の心情や人物像を想像し、根拠を示しながら発表することはできた。「勇太はあまりしゃべらない。」「勇太は目を合わせない。」などから、勇太が人見知りの性格であることを想像できた児童は多かった。しかし、「まるで知らない道を歩いているような気がしてくる。」から登場人物の心情を想像するなど、言葉から想像を膨らませなければならない場面で、自分から発表できる児童は少なかった。担任が「歩きなれた道なのに、知らない道のように感じるってどういう時だろうか。」「みんななら、どうですか。」などと促したり、友だちの意見を聞いたりして、直接的な表現からだけでなく、想像を膨らませて心情を読み取っていく様子が見られた。

4 単元について

(1) 単元設定の主旨

学習指導要領解説国語編の第5学年及び第6学年の「C読むこと」指導事項のエ文学的な文章の解釈に関する指導事項に、「登場人物の心情は、直接的に描写されている場合もあるが、登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている場合もある。このような表現の仕方にも注意し、想像を豊かにしながら、読むことが大切になる。」とある。

本教材「大造じいさんとガン」は、登場人物の心情を表す心情表現、行動描写や美しい情景描写が多数みられる作品である。行動や会話から想像を膨らませるだけでなく、「情景描写」という表現技法を学び、その文章表現が暗示している「大造じいさん」の心情を想像させていきたい。

また、同じく学習指導要領解説編「C読むこと」に「象徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容などに気付き、それらを評価したり、自分の表現に生かしたり、感想文や解説文などにまとめたりしていくことになる。」とある。

「大造じいさんとガン」の学習での「それらを評価する」とは、児童一人一人が物語の中から、自分が魅力的だと感じるものを選ぶことだと考える。「大造じいさんとガン」は、感動的なストーリーや、登場人物の人柄、美しい情景描写など、魅力的な部分を自分なりに評価しやすい作品である。

「大造じいさんとガン」の魅力を発表する学習を設定し、児童一人一人に魅力的だと感じた部分をしっかりとまとめさせていきたい。

(2) 指導の構想

研究主題「確かな読みの力を育てる指導の工夫」を踏まえ、「言葉に着目し、叙述に即して正しく文章を読み取る力」を育てるために、以下の手立てを講じる。

【手立て1】 単元を貫く学習課題を設定し、児童に読む目的と課題解決のための見通しをもたせる。

単元の終末に、自分の感じた「大造じいさんとガン」の魅力を伝え合う活動を行う。登場人物の人柄、感動的なストーリーに加え、心情表現や行動描写、情景描写も「大造じいさんとガン」の魅力と言える。そのため、作品の魅力を伝え合う活動を行うためには、本文をもとに登場人物の心情を読み取り、描写の効果を感じる必要がある。これにより、児童の読みの力を付けていきたい。

【手立て2】 ワークシートを用いて、内容を関連付けて考えさせる。

ワークシートを用いて、登場人物相互の関係や登場人物の心情と叙述との関係などを整理させる。「大造じいさん」の心情の変化や情景描写の効果を抑えさせることで、「大造じいさんとガン」の魅力に気付かせていきたい。

【手立て3】 単元の指導計画を工夫し、情景描写を見付けやすくしたり、その効果を感じやすくしたりする。

情景描写によって暗示的に表現されている「大造じいさん」の心情を抑えやすくさせるために、指導計画を工夫する。情景描写の学習に入る前に、行動描写や直接的に心情を表現した部分を手掛かりにして、「大造じいさん」の心情の移り変わりを読み取らせる（3時、4時）。読み取った心情と響き合う情景描写を探す学習をさせることで、情景描写を見付けやすくなるを考える。また、最初に読み取った「大造じいさん」の心情と、情景描写から想像した「大造じいさん」の心情とを比較することで、情景描写によって登場人物の心情をより深く想像することができるという効果を感じ取らせたい。

【手立て4】 カラーの挿絵や写真を提示し、視覚的に場面を把握させる。

「大造じいさんとガン」では、情景描写等で色が効果的に使われている。カラーの挿絵や写真を提示し、本文に書かれている内容をより正確に把握させ、叙述に即して登場人物の心情や場面の様子を捉えさせたい。

(3) 指導計画 (本時7 / 10)

次	時	学習活動	評価規準
1	1 2	○範読を聞き、印象に残った表現について交流する。 ○学習課題「すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう。」を設定し、学習計画を立てる。	【関】物語の内容や表現について関心を持ち、学習の見通しをもととしている。
2	3 4 5 6 7 8 (本時)	○「残雪」とのかかわりの中で、「大造じいさん」の心情がどのように移り変わっていくかを読み取る。 ○「大造じいさん」の「残雪」に対する見方が大きく変わった場面を探し、理由とともに話し合う。 ○情景描写について知り、1・2場面の「大造じいさん」の心情を情景描写から想像する。 ○3場面の「大造じいさん」の心情を情景描写から想像する。 ○4場面の「大造じいさん」の心情を情景描写から想像する。	【読】叙述を基に、登場人物の相互関係を捉え、心情の変化をまとめている。 【読】情景描写に着目し、その表現から登場人物の心情を考えている。 【言】情景描写など、語感や言葉の使い方に関心をもっている。
3	9 10	○友だちに伝えるために、自分が感じた「大造じいさんとガン」の魅力をまとめる。 ○互いに感じた「大造じいさんとガン」の魅力を聞き合い、自分の印象に残った表現や理由と比べて感想を発表する。	【読】考えたことの共通点や相違点を明らかにしながら友だちの発表を聞き、自分の考えを広げたり深めたりしている。

5 本時の指導(本時7/10)

(1) ねらい

○情景描写に含まれる言葉からイメージを膨らませ、「大造じいさん」の心情を考えることができる。

(2) 本時の構想

【手立て 2】 ワークシートを用いて、どの言葉に着目したのか、その言葉からどのようなイメージをもったのかを書かせ、「大造じいさん」の心情を考えさせる。

本時は第3場面の情景描写について学習をする。3, 4時に読み取った「大造じいさん」の心情を確認したあと、その心情と響き合う情景描写を見付けさせる。そして、見付けた情景描写のどの言葉から、どのようなイメージをもったのかを記述させる。さらに、そのイメージをふまえて考えさせることで、「大造じいさん」の心情をより豊かに想像させたい。

【手立て 4】 カラーの挿絵や写真を提示し、視覚的に場面を把握させる。

第3場面の情景描写は前半部分に出てくるが、挿絵がない部分である。しかし、この場面の情景描写には、色彩を表す言葉が用いられている。そこで、色彩から想像を膨らませるための手掛かりとして、青く澄んだ空や朝焼けの写真、教科書 P.121 の挿絵を拡大コピーしたものなどを提示する。

(3) 本時の展開

分	主な学習活動と教師の働きかけ・予想される児童の反応	留意点（・）と評価（◆）
1	1 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">「大造じいさん」の心情を、情景をえがいた表現から想像し</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを板書し、全員で確認する。
3	2 本時までには捉えた、第3場面の「大造じいさん」の心情を確認する。 T: 第3場面の「大造じいさん」はどんな心情でしたか。 C: おとり作戦が「うまくいくぞ」と思っていた。 C: 「いよいよ戦闘開始だ。」と思っている。 T: 第3場面 P.123～P.125L.5の部分を、どこが情景を描いた表現なのかを考えながら、音読しましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・3, 4時に学習したことが記入されている模造紙を掲示しておく。
3	3 情景描写を探す。 T: 第3場面の「大造じいさん」の心情を表している情景を描いた表現を探して線を引きましょう。 C: 「うまくいくぞ。」と関係がありそうなのは「青くすんだ空」だ。 C: 「戦闘開始だ。」と関係がありそうなのは、「東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。」だ。 T: 線を引いた所を発表してください。	<ul style="list-style-type: none"> ・青くすんだ空や朝焼けの写真、教科書 P.121 の挿絵の拡大コピーを提示する。
10	4 見つけた情景描写から、「大造じいさん」の心情を想像する。 T: 「青くすんだ空」、「東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。」はこのような空ですね。(写真・挿絵を提示する。) T: 「大造じいさんとガン」には色が使われているところが沢山あります。色も手掛かりに、想像を膨らませましょう。 T: 「青い」という色からイメージすることは何ですか。 C: 冷静な感じ。 C: 冷たい感じ。 C: さわやかな感じ。 C: 落ち着いた感じ。 T: 「すんだ」という言葉からイメージすることは何ですか。 C: 何もない感じ。 C: さっぱりした感じ。 T: 「赤」という色からイメージすることは何ですか。 C: 熱い。 C: 情熱。 C: 闘志。 T: 「赤」ではなくて、「真っ赤」だったらどうですか。 C: すごく熱い。 C: ものすごい情熱。 C: すごく強い闘志。 T: 「燃える」という言葉からイメージすることは何ですか。 C: 熱い。 C: やる気満々。 C: 情熱。 C: 本気。	<ul style="list-style-type: none"> ・【手立て4】 ・「大造じいさん」の心情を想像する手掛かりとするため、板書しておく。 ・「すんだ」だけで出にくい場合は「すんだ空」で問う。
10	T: 今発表してくれたことを手掛かりにして、「青く澄んだ空」と「東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。」から「大造じいさん」のどんな心情が想像できるか、班の人と話しましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・班で話し合ったことはワークシートの下段にメモする。

	<p>C:「すんだ」は何もないということだから、心配なことは何もないという感じじゃないかな。</p> <p>C:「青い」はさわやかな感じがするから、この作戦で決着がつくと思ってるんじゃないかな。</p> <p>C:「真っ赤」って書いてあるから、残雪を絶対倒してやるっていうすごい闘志を感じる。</p> <p>C:「燃える」って本気ということだから、「今年こそ絶対に」って思ってるということだよ。</p>	
5	<p>T:班で話し合ったことを参考にして、「青く澄んだ空」と「東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。」から想像される「大造じいさん」の心情を書きましょう。</p> <p>C:ぼくは、情景を表す「青い」という言葉から、さわやかな感じがしました。だから、大造じいさんは、この作戦が絶対にうまくいって決着がつくという気持ちだったと思います。</p> <p>C:わたしは、情景を表す「すんだ」という言葉から、何もないというイメージをもちました。だから、大造じいさんは心配なことは何もなく、絶対にうまくいくという気持ちだったと思います。</p> <p>C:ぼくは、情景を表す「真っ赤に」という言葉からもものすごい闘志を感じました。だから、大造じいさんは、今年こそ絶対に残雪との戦いに勝ってやるという気持ちだったと思います。</p> <p>C:わたしは、情景を表す「燃えて」という言葉から、本気という言葉思い浮かべました。だから、大造じいさんは、今まで以上に本気で戦うぞという気持ちだと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に考えさせ記述させる。 記述用の小さなワークシートを用意する。【手立て2】 <p>◆情景描写の言葉からイメージしたことをふまえて、「大造じいさん」の心情を考えている。</p>
8	<p>T:ワークシートに書いたことを発表してください。</p> <p>C:(上記の内容を発表。)</p> <p>T:この場面では、色が青から真っ赤へ変化しました。椋鳩十さんは、この色の変化で何を表現したかったのでしょうか。</p> <p>C:「大造じいさん」の気持ちが強くなっていく感じだと思います。</p> <p>C:「大造じいさん」が「残雪」との戦いに向けて、気合いが入っていく感じだと思います。</p> <p>T:椋鳩十さんは、情景を表す表現を使って、大造じいさんの気持ちが高まっていく様子を表したのですね。</p>	
5	<p>5 本時の学習の感想を書く。</p> <p>T:今日学習した「情景」について、感想を書きましょう。</p> <p>C:「大造じいさん」の心情と情景がつながっていることが分かりました。</p> <p>C:「真っ赤に」という情景から、「大造じいさん」の強い気持ちが分かりました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 付箋に記述させる。

C:情景が書いてあると、想像が豊かになることが分かりました。	
C:色から心情が想像できるとは思っていなかったから、驚きました。	
T:感想を発表してください。	

(4) 評価

A: 情景描写の言葉からイメージしたことと関連させて、「大造じいさん」の心情を考えている。

B: 情景描写の言葉から、イメージを膨らませている。

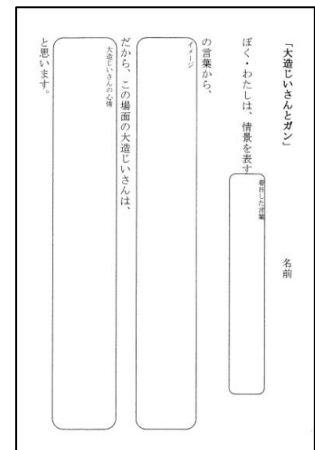
C: Bに至っていない。

6 授業の考察

(1) 本時の児童の姿と指導の手立ての有効性

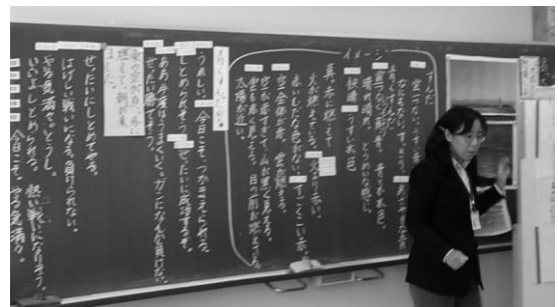
【手立て 2】 ワークシートを用いて、どの言葉に着目したのか、その言葉からどのようなイメージをもったのかを書かせ、「大造じいさん」の心情を考えさせる。

本文のどの言葉から想像したのかを意識させるために、ワークシートを用いた。思考の過程をアウトプットすることができたため、どの児童も、着目した言葉を記入し、そこから「大造じいさん」の心情を想像することができた。叙述に即して想像をすることができたといえる。したがって、手立て2は有効であったといえる。



【手立て 4】 カラーの挿絵や写真を提示し、視覚的に場面を把握させる。

「大造じいさんとガン」には色彩を用いた表現が多くあり、情景描写をとらえさせるために、色に着目させるところから始めた。このことは、児童にとって取り組みやすく、よい手立てといえる。しかし、挿絵や写真を強調することによって、視覚から入る情報から想像を膨らませてしまい、本文の叙述から離れていってしまった。カラーの挿絵や写真は慎重に用いなければならないことが分かった。本時における手立て4は、有効ではなかったといえる。



(2) 成果と課題

情景描写を取り上げ、風景の中には心情と響き合うように描かれているものがあることを捉えることはできた。また、色による心情の表現についても、想像を膨らませることができた。これらの点については、成果といえる。しかし、他の表現から捉えられる「大造じいさん」の心情の変化や場面の様子などと関係付けながら学習することによって、より深く物語文を読み取ることができるといえることを改めて感じた。情景描写のみを取り上げて学習することについては、課題が残った。



また、国語科においては、本文の言葉から想像する力を養わなければならない。挿絵等は、児童の実態として想像が難しい場合に、あくまでも補助的に扱うことが適切であり、初めから強調して提示

してはならないことも分かった。児童の思考の過程をアウトプットさせる形のワークシートは、叙述と想像したことをつなげて想像することが苦手な児童も自力解決しやすかった。児童が思考の過程でどの部分に難しさを感じるのかを、実態を見極めて、ワークシートを作成していく必要がある。

7 研究のまとめ

「確かな読みの力を育てる指導の工夫」を研究主題に掲げ、「叙述に即して正しく文章を読み取る力をつけるための手立てのあり方」について、校内研究に取り組んできた。これまでの授業実践から、次のような成果や課題が明らかになった。

(1) 研究の成果について

① 「学習活動を工夫し、目的に応じて文章を読み取らせる。」について

〈低学年〉

文章を読んで得た知識や情報をあらすじやクイズ形式にまとめたり、身近な人に表現したりする活動が、子どもの興味関心を高め、意欲的に読む姿につながった。

〈中学年〉

教材文で身に付けた読みの力をいかして、他の物語や図鑑などを読み取り、読書郵便やリーフレット、本の形式にまとめる活動が有効であった。また、表現の対象を全校に広げたことで、子どもは意欲をもちながら学習を進めることができた。

〈高学年〉

登場人物の相互関係や場面についての描写、文章の要旨、事実と意見などの関係などを読み取ったり、読み取ったことから自分の考えをまとめたりする活動が、友だちとの意見交流を活性化させることにつながった。また、作者や筆者の表現の意図や工夫に気づくことにもつながった。

② 「言葉や文章を根拠に考えさせ、正しく読み取らせる。」について

○物語文

〈低学年〉

- ・ 登場人物の行動から場面の様子や登場人物の心情を読み取るために、動作化して音読することや人物の言動にサイドラインを引かせることが有効であった。
- ・ あらすじをまとめる活動では、読み取ったことを短冊に書き、その後、ワークシートに三段構成（はじめ・中・おわり）でまとめさせる学習過程が有効であった。

〈中学年〉

- ・ 場面ごとに登場人物の行動をまとめさせたり、対比的な表現や比喻表現、主題にかかわる言葉に着目して読ませたりすることで、場面の移り変わりや登場人物の心情の変化をとらえさせることができた。
- ・ 心情曲線を用いたことで、登場人物の心情の変化を視覚的にとらえさせたり、根拠をあげながら意見を述べさせたりすることができた。

〈高学年〉

- ・ 登場人物の心情を心情表現や行動描写からとらえさせた後、登場人物の心情を表す情景描写を見付けさせたことで、情景描写の表現の効果を感じ取らせることができた。

- ・ 作品全体を通した読みの課題を設定したり、その課題に沿って物語の出来事や人物の心情を年表にまとめたりさせることで、作品の主題とかかわらせながら登場人物の心情の変化をとらえさせることができた。

○説明文

〈低学年〉

- ・ 写真を提示したり、写真の提示順について文章と照らし合わせながら検討したりしたことで、筆者の説明の仕方をとらえさせることができた。
- ・ 本文と挿絵を入れたワークシートを活用することで、文章と挿絵の関係を理解させたり、根拠となる言葉を見付けさせたりすることができた。

〈中学年〉

- ・ 教材文を1枚にまとめたものやワークシートを使用することにより、段落相互の関係や文章構成をとらえさせることができた。その際、キーセンテンスにサイドラインを引かせたりキーワードを丸で囲ませたりさせることが、段落の要点や段落のつながりを理解させることにつながった。
- ・ 教材文で取り上げられている食品の実物を提示したり、本文の写真に着目させたりすることで、筆者の説明の工夫（事例の提示順・対比表現）に気付かせることができた。

〈高学年〉

- ・ 文の役割を色分けして分類させることにより、問いの文や事例、答えの文が明確になり、形式段落の文章構成をつかませることができた。
- ・ 筆者の主張をまとめるために、キーワードを探し出す段落を指定することで、事例と主張の区別が明確になり、言葉を適切に選択しながらまとめさせることができた。

〈ひまわり学級〉

- ・ 教材文にある写真を並び替えさせることにより、教材文と写真を照らし合わせながら読み取りを進めることができた。
- ・ 穴埋め式のワークシートを用いることで、本文中のキーワードに気付かせることができ、子どもにも自分の意見をもたせることができた。

③ 「語句の意味理解を確かにする。」について

- ・ 音読を多く取り入れることで、文章表現の細かいところまで目が向き、人物の心情の読み取りに役立った。
- ・ カレンダー作りを学習活動に取り入れたことにより、時間の経過を表す言葉に着目させることができた。

(2) 研究の課題について

- ・ 物語文では、主題のとらえとその主題に迫るための読み取らせ方を指導者がもつことが大切である。
- ・ 物語文の人物の心情の読み取りは、情景描写だけでなく、登場人物の相互関係やその変化場面の様子にも着目させながらとらえさせることが大切である。
- ・ 挿絵や写真は、場面の様子を視覚的にとらえさせるには有効な手立てであるが、叙述から離れた読みにならないように配慮する必要がある。

- ・ 各段落の読み取りと理解だけに重点を置いて読み取らせるだけでなく、段落相互の関係や事実と意見との関係にも着目させて読み取らせることが大切である。そのためには、指導事項の重点化を図る必要がある。
- ・ 教材文全文を一枚の紙にして提示することは、段落の要点や段落相互の関係をとらえさせるのには有効な手立てであるが、着目させたい内容によって紙を折って限定的に示すなどの工夫が必要である。
- ・ 話し合いの目的と進め方を示し、子どもに見通しをもたせて話し合いをさせることが大切である。
- ・ 話し合いを活性化させるために、拡大したワークシートの掲示やホワイトボードの活用などの工夫が必要である。これらのことは、自力解決が難しい子どもへの支援ともなる。

(3) まとめ

今年度は、「確かな読みの力を育てる指導の工夫」を目指し、「叙述に即して正しく文章を読み取る力をつけるための手立てのあり方」について校内研究を行った。

単元を貫く学習課題を設定することで、子どもたちに教材文を読む目的や必要性を意識させることができた。その際、留意する点として、次の3点を明確化することが大切であることが明らかになった。

- ・ 学年の発達段階
- ・ 学習の過程
- ・ 言語活動の種類や特徴

教材文で身に付けた「読む力」を、「話すこと」や「書くこと」にいかした単元を構成することが、「言葉に着目し、叙述に即して正しく文章を読み取る力」の育成に有効であることが確かめられた。

これまでの研究によって得られた成果と課題を全職員で共有し、今後の実践に生かしていくことが求められている。